

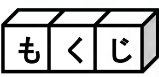


京都あぐい便い



近畿農政局京都支局
発行:平成31年2月27日

京都御苑の梅



- P1・・・「近畿地域農業ナビ」を公開
- P2・・・春の農作業安全確認運動について／農福連携の取組の推進について
- P3・・・現場だより「なごみの里あさひ」を拠点に地域活性化と都市交流 農事組合法人 旭！」
- P4・・・京都府農業の現状、近畿農政局京都支局からのお知らせ

「近畿地域農業ナビ」を公開 New!

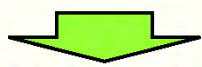
～地域農業の現状や変化が容易に把握できます！～

人口減少や高齢化等が進行する中、今後の地域農業を維持し発展させていくためには、まず、それぞれの地域の現状・変化を把握することが重要です。
このため、近畿農政局では、関係機関や団体、集落等の皆様がこれらを容易に把握できるよう、見たい地域をマウスで選択するだけで、農林業センサス等の主要データが図表で表示できる「近畿地域農業ナビ」を作成し、平成31年1月31日にHP上で公開しました。是非、御利用ください。

主な特徴

- 1 近畿6府県の全ての市区町村、旧市区町村、農業集落別データを収録
- 2 地域全体の高齢化率や15年後の人口予測値など、関連するデータも収録
- 3 表示された統計表やグラフにより、選択した地域と府県平均との比較が可能 (全国平均や前回センサス結果との比較も可能)
- 4 統計表・グラフは、A4判4ページに印刷できるよう構成

近畿農政局HPのトップページから、下記のバナーをクリック



見たい地域をマウスで選択するだけ！

サンプル (P1～P4)



【お問い合わせ先】 近畿農政局 統計部統計企画課 (電話)075-414-9620

春の農作業安全確認運動について

農林水産省の取りまとめによると、平成29年の農作業事故死亡者数は304人となり、前年より8人減少し、近年は減少傾向にあります。依然として300人以上の方が農作業で亡くなられています。

なかでも、65歳以上の高齢者による事故が、256人と死亡事故全体の84.2%を占めており、高齢者による死亡割合は高い傾向にあります。

また、事故区分別では農業機械作業に係るものが211人(69.4%)、農業用施設作業に係るものが13人(4.3%)、農業機械・施設以外の作業に係るものが80人(26.3%)となっています。

農林水産省では、毎年約300人以上発生し続けている農作業死亡事故を減少させるため、春作業が行われる3月から5月を重点期間として、関係団体・企業等と一体となって、「春の農作業安全確認運動」を実施します。

期間中は、

- ① GAPの周知・実践の促進、農作業安全「リスクカルテ」等を活用した現場での改善を図る取組
- ② 地域での事故事例や啓発資材等を活用した「声かけ」(注意喚起)、回覧板や広報誌などを通じた啓発活動や乗用型トラクター乗車時におけるシートベルト、ヘルメット着用の声かけ
- ③ 農畜産業者等が参加する会議、集会、講習会、イベント等を活用した安全意識の向上を図る取組
- ④ 農業団体における労災保険特別加入団体の設置と労災保険特別加入制度への農業者の加入を促進する取組

などを実施します。

農業団体や生産者の皆様も、農作業の前に、安全意識の向上や安全確認を図っていただくことで、事故を未然に防ぎ事故のない農作業に努めていただきますようお願いします。



【お問い合わせ先】

近畿農政局生産部生産技術環境課 (電話)075-414-9722

農福連携の取組の推進について

農業・農村は、農業就業人口の減少や荒廃農地の増加などの課題を抱えています。

一方、福祉(障害者)は、就労先の確保や工賃(賃金)の引き上げといった課題を抱えています。

こうした中で、障害者が農業分野で活躍することにより、農業側にとっては、農業労働力の確保や農地の維持・拡大、荒廃農地の防止や解消などにつながっており、障害者にとっては、新たな働き場の確保や工賃の向上だけではなく、農作業を通じて自然に触れることでリハビリ効果など様々な良い効果が得られるなど、農業と福祉が連携することにより、双方の課題解決と利益があるWin-Winの取組として、農福連携の取組が全国的に進められています。

農林水産省では、農山漁村振興交付金の中で農福連携に取り組む社会福祉法人や農業経営体(地域協議会)等に対して、福祉農園整備や技術習得のための支援などを行っているほか、近畿農政局においても近畿ブロック「農業と福祉の連携による就労・雇用促進ネットワーク」を設立し、優良事例の紹介やセミナーの開催など、農福連携の推進を図っています。

また、昨年11月には「一般社団法人日本農福連携協会」が設立され、農林水産業を通じて障害者等の社会参画の推進を図っていくこととしています。

「農」と福祉の連携(=農福連携)

【農業・農村の課題】

- ・農業労働力の確保
※毎年、新規就農者の2倍の農業従事者が減少
- ・荒廃農地の解消 等
※佐賀県と同程度の面積が荒廃農地となっている

【福祉(障害者等)の課題】

- ・障害者等の就労先の確保
※障害者約940万人のうち雇用施策対象となるのは約360万人、うち雇用(就労)しているのは約80万人
- ・工賃の引き上げ 等

障害者等が持てる能力を発揮し、それぞれの特性を活かした農業生産活動に参画

【農業・農村のメリット】

- ・農業労働力の確保
- ・農地の維持・拡大
- ・荒廃農地の防止
- ・地域コミュニティの維持 等

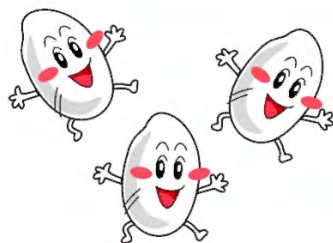
【福祉(障害者等)のメリット】

- ・障害者等の雇用の場の確保
- ・賃金(工賃)向上
- ・生きがい、リハビリ
- ・一般就労のための訓練 等

【お問い合わせ先】

近畿農政局農村振興部農村計画課 (電話)075-414-9050

現場だより



「なごみの里あさひ」を拠点に地域活性化と都市交流 農事組合法人 旭！

農事組合法人 旭は、亀岡市旭町で2008年5月に設立されました。
経営の中心は水稻で、5haにコシヒカリ、新羽二重糯、マンゲツモチを作っています。
ほかにも農作業受託や、JA京都が委託する水稻苗の生産を行っています。
2014年からは、農事組合が経営する農産物直売所「なごみの里あさひ」が開設し、都市と地域との交流拠点になっています。



法人事務所前にて、法人幹部の方々。



亀岡市旭町の田園風景。段差のあるほ場が問題とのことです。

農産物直売所「なごみの里あさひ」は、2014年6月に国や亀岡市の補助を受けオープンしました。
売り上げは年々伸びていて、年に2回開催されるイベントでは、亀岡市内はもとより、大阪府からも集客し、都市との交流を図っています。



店内には、地元の農家から出された新鮮な野菜が並んでいました。



主力の米の販売は「なごみの里」以外にも、直接販売や大阪府池田市での出張販売が好調だそうです。

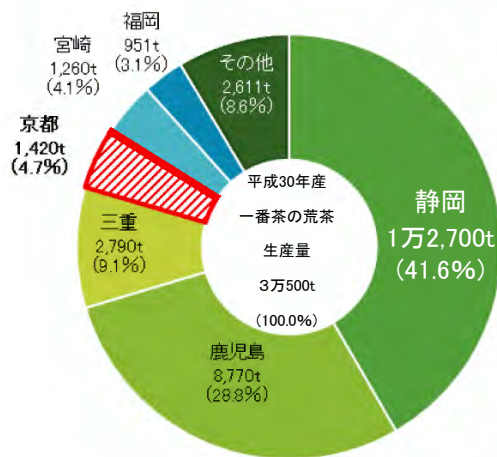


加工品はもちのほか、米粉のクッキーやラスクも販売しています。

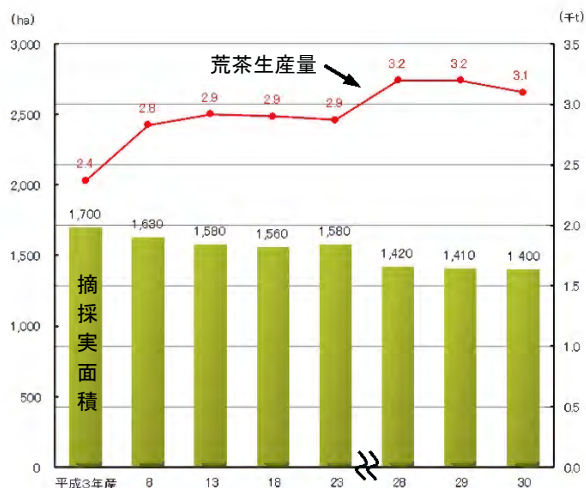
京都府農業の現状

「荒茶」とは、茶葉（生葉）を蒸熱、揉み操作、乾燥等の加工処理を行い製造したもので、仕上げ茶として再製する以前のものをいう。

平成30年産一番茶の府県別荒茶生産量および割合（主産県）



茶の摘採面積及び荒茶生産量の推移（京都府）



注：四捨五入のため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

資料：平成30年産の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

～近畿農政局京都支局からのお知らせ～

立春が過ぎて、今は二十四節季の雨水にあたり、季節は冬から春へと装いを変えようとしています。春を告げる生き物と言えば、春告草（梅）、春告鳥（鶯）、春告魚（ニシン）。

今年は、エルニーニョの発生の影響もあってか、西日本を中心に暖冬傾向で、福井や高松、鳥取などでは梅の開花が平年に比べて1ヶ月前後も早くなっている地域や、鶯の初鳴日が2週間以上も早くなっている地域があります。ニシンの群れも産卵のために小樽の沿岸にやって来たそうです。

暖冬は、暖房費がかからないなどのメリットもありますが、農業にとっては野菜の生育が早くなって供給過剰で価格の低下を招いたり、雪解け水に頼っている地域では、雪不足による渇水で田植え時期の用水が確保できないなどの影響をもたらします。

気象庁が2月21日に発表した1ヶ月予報でも春の訪れがかなり早いと予想されており、今後は大きな寒の戻りもなく、季節は春に向かって歩を進めていきそうな気配です。

春は、心も体もウキウキする季節ですが、これからの時期は、スギの花粉症に悩まされる方にとってはつらい時期でもあります。林野庁では、スギ人工林の伐採と花粉の少ない苗木への植え替えの促進を図ると共に、菌類を使ってスギの雄花を枯死させ、花粉の飛散を防ぐ技術の開発と実用化を進めることで、スギ花粉の飛散を少なくする対策を進めています。

こうした対策は効果が出るまで時間を要しますが、近い将来、こうした対策の効果によって現代の国民病とも言われるスギ花粉症に悩まされることがない時代がやってくることを期待したいですね。

お問い合わせ先：近畿農政局京都支局

〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下る丁子風呂町

TEL: 075-414-9015 FAX: 075-414-9057

ホームページ: <http://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/kyoto/index.html>